

営業本部 第1プロジェクト

これがバイク好きの日常会話

Producer
初瀬川 裕介



▶ 缶コーヒー片手に自慢のバイクへの愛を語るが如く

皆さんはじめまして！5月7日よりADプロジェクトに入社しました初瀬川裕介と申します。前職はバイク雑誌などを発行している出版社で、編集を4年担当した後、広告営業に異動になり、バイク業界を彷徨い歩いておりました。そもそも僕はバイク業界での仕事を志望していたわけではありません。本来は雑誌編集者になりたい、という想いが先に立ち、飛び込んだのがたまたまバイク雑誌だったのです。そんな僕がバイクメーカーのPRを担当することになるとは……。人生わからんものです。さて、せっかく頂戴した自己紹介の機会なので、業界らしく自慢の愛車達をご紹介しますかと思います。



←愛車NO.1はアメリカのビュエル社が製造していたXB125sというマシン。ビュエルとはハーレーのエンジンを搭載したスポーツバイク、という意味不明ともいえるコンセプトを掲げる変態メーカー。発表時「そもそもハーレーが速く走ってどうする!？」と世界中で突っ込まれたのはいい思い出です。が、乗り味は最高の一言。1200ccという大排気量エンジンが低回転から怒涛のトルクを発生し、不用意にアクセルを開けようものならホイールは必至！他にも車体各部に変態的なメカニズムを多数搭載しているのですが、細かい話を聞きたい方は初瀬川まで直接どうぞ。さて、かくも素晴らしい変態メーカービュエル社、ハーレー社の傘下のメーカーとして活動していたのですが、09年に売り上げ不振を原因に市場から撤退してしまいました。創業者であるエリック・ビュエルが沈痛な面持ちで撤退を表明する動画をHPで見たときは悲しかったなあ。

→愛車NO.2はカワサキのGPZ900R Ninja。こちらは上のビュエルとは異なり(失礼)バイクヒストリーにその名を刻む、名車の中の名車なのです。Zを代表とする多くの空冷エンジンを搭載した名車を送り出してきたカワサキが、84年に満を持して発表した水冷エンジン搭載車がこのバイクなのです。いまだに熱心なファンも多く、またカスタムベースとしても人気が高いモデルで、中古車雑誌を開けば換骨奪胎カスタムされ尽くしたニンジャを目にできるはず。こちらも乗り味は最高！並列4気筒エンジンが奏でる『オオオオオーン』という咆哮が俄然ライダーを“その気”にさせます。ただし、古いバイクらしく死ぬほど重いのが玉にキズ。



さて、ここぞとばかりに愛車自慢をさせていただきましたが、実はこの二台、絶賛車検切りし中につき乗ることができません。もうこの子たちを手放してアプリリアのRSV4に手を出そうか…、とも思わないでもないですが、近いうちに車検場に行くつもりなので、車両運搬の際は皆様のお力添えを頂ければ幸いです。

営業本部 第4プロジェクト

営業本部 第2プロジェクト

Knowing Origins: ルーツを知る大切さ

日時：2013年6月～7月
種類：舞台制作



Producer
宮崎詩子



▶ ミュージカル忍たま乱太郎第4弾再演

5月から約1ヶ月間の稽古に入り、ついに6月21日から始まりましたミュージカル忍たま乱太郎第4弾再演！只今(原稿記入時)真っ最中です。私自身も第2弾の初演から携わり、あっという間に6作品目に入るとなりました。「忍たま乱太郎」は、一般的にはEテレで放映されているアニメだったり、朝日小学生新聞に掲載されている原作漫画、「落第忍者 乱太郎」でご存じの方が多くではないかと思いますが、『ミュージカル「忍たま乱太郎」』は、原作やアニメとは異なり、忍術学園の六年生を中心に据えたオリジナルのストーリーで、主役級のキャストにはいわゆるイケメン俳優が揃えられています。来場者はみごとに99%が女性！20代が3割5分、10代から40代までと客層は幅広く、同作品を2回以上観るといってお客様が、なんと7割もいらっしゃいます。



アンケートからも読み取れるのですが、「同じ作品を何度も観ること」で、小さな変化を探して楽しむ」お客さまが多いと感じます。私はテーマパーク出身なのですが、当作品のリピーターの感覚が、テーマパークのそれに類似しているとき頃感じ

ています。公演を重ねる度にお客様の中で一体感が生まれてくるような独特の空気感はショー運営をしていた私にとって懐かしく、「お客様と作り上げる作品」とあるという共通点があります。ただテーマパークと違う点は年間パスでリピートされるお客様が多いのに対し、忍みゆ(8)は6,300円のチケットを毎回購入して来てくださっているということ。一番多い方で全日程15公演全て行きます！というお客様もすでに数人は耳にしています。(約10万円の出演費！…凄いですm(_ _)m) 今回の劇場は、前回のサンシャイン劇場と違って、通常ヒーローショーを行っている、東京ドームシティアターGロッソです。ステージの仕様がサンシャインと大きく違うこともあり、4弾再演はあらゆるシーンに渡り細かい演出変更が加えられました。お客様にも今回の「小さな変化」はとも評判が良く、楽しんで頂けているようです。千秋楽まであと15公演。キャストスタッフ一同、体調を万全に、皆が笑顔で美味しいお酒が飲み交わされるように、七夕の千秋楽まで頑張ります！！



初日公演直前の円陣。みんなの熱い緊張感が漂います

営業本部 第3プロジェクト

デザインで表現するホスピタリティ

浦山 善明



▶ 初めてこういうのを見ました

皆様は下の写真の建物をご存知でしょうか？何とこれらの建物・・・とある信用金庫の店舗なのです。



写真の左側から、「leaf」「虹のミルフィーユ」「レインボーシャワー」というテーマで作られており、銀行ではおなじみの看板は一切存在しません。それぞれが非常に特徴的なデザインであるため、ファサードそのものが看板の役割をはたしているようです。さらに店内もテーマに合わせた作りとなっており、デザインはもちろんインテリア等の細部に至るまでこだわりが見られます。

「1秒でも長く居たくなる信用金庫にしたい」という願いから、設計デザインを担当されたエマニュエル・ムホーさんは自然と街が溶け込むように、そして足を運んで頂いたお客様が来る度にリフレッシュできるようにとこれらをデザインしたそうです。沢山の自然の光が降り注ぎ、まるで洒落たカフェのように色とりどりのインテリアに囲まれ、銀行と言えば閉鎖的で、中では職員と対峙するような独特の緊張感がありますが(あくまで個人的なイメージですので悪しからず)、これらにそれはないように感じます。一概に全てがこのようにすべきだとは思いませんが、独自のアプローチでホスピタリティを表現している姿勢に感心するとともに、そのホスピタリティ精神で簡単にお金を貸してくれないかなあと淡い期待をするのでした・・・



忙しい中でも、つつい足を運びたいくなるような佇まい

営業本部 第5プロジェクト

SCAJ 2013 (ジャマイカコーヒーブース)

日時：2013年9月25日(水)～27日(金)
会場：東京ビックサイト 西4ホール
種類：企画・運営

大島 有貴

▶ コーヒーの魅力伝える新メニュー

今年の9月に開催される「SCAJ2013」。今年で10周年を迎えるSCAJは、日本国内外からコーヒー関連企業200ブースが集う日本最大のスペシャルティコーヒー展示会です。世界を代表する生産国からの選りすぐりのコーヒー豆の展示や試飲・試食を行っている本イベントで、私はジャマイカコーヒーブースの企画・運営を担当しております。SCAJを通じて、よりいっそう世界の方々にジャマイカのブルーマウンテンコーヒーの魅力を知っていただくため、

本番当日はブース内にブルーマウンテンコーヒーを使ったスイーツを皆さまに提供させていただく予定です!! 提供させていただく新メニューは、今後何れも試食会を重ね、数点に絞る予定です。去年はブルーマウンテンコーヒーを使ったコーヒーゼリーを提供させていただき、予想をはるかに超える大勢の方に試食をしていただきました!! 今年は昨年を凌ぐ勢いで、より多くの方にジャマイカブルーマウンテンコーヒーの魅力を広めていきたいと思います!!

ブルーマウンテンを使った新・スイーツメニュー案を特別に大公開!!



この中のどれを味わえるかは当日のお楽しみです!!是非当日会場にお越しください!!お待ちしております!!

E-通信 イギリス・オランダ・日本編

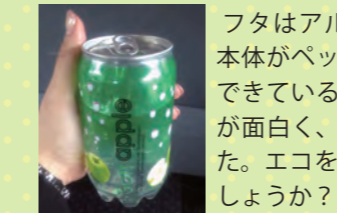
Associate Producer
広川 映里夏

この度、仕事ではありませんが、6月にヨーロッパを回る事で、色々な国のさり気ない「クリエイティブ・アート」を発見してきました。クリエイティビティは必ずアートを生み出し、ちょっとした工夫とユーモアであらゆる作品が作り上げられるのです。

まずは、イギリス。ロンドンの街角で観たサブライズ感ある演出がとても楽しかったストリートパフォーマーです。ふつうに自転車に乗ってきて、急にその自転車を分解し始め、担いでいた大きなナップザックからシンバルやバスドラムペダル等の備品を取り出し、あっという間にドラムキットに変身!それをまた器用に演奏していました。また、地下鉄駅前に立っていたドアマン風紳士。6月にして暑苦しい恰好をしていると思ったら、急にダンスをし始め、周りのお客さんを巻き込むパフォーマーでした。

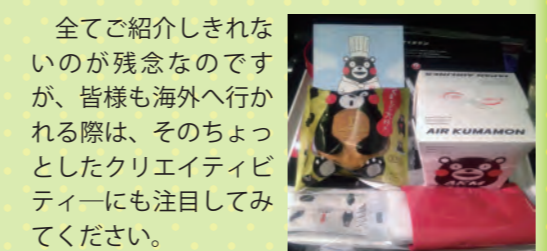


次はオランダで見つけたちょっとしたアート。ある工場で見かけた掃除道具の保管場所がユニークでした。尋ねたところ、道具が戻されていない場合、何が無くなっているかすぐ分かる様、そのイラストが描かれており、作業員もそれを見ると自然と無くなっているものが気になり、探して戻すそうです。



フタはアルミなのですが、本体がペットボトルの素材でできているソーダ缶も見た目が面白く、思わず購入しました。エコを意識しているのでしょうか？

最後は、我が日本の航空会社のアート。長時間のフライトで到着寸前に出された「エアークマモン」。今ではおなじみの熊本県のゆるキャラ「くまモン」が採用され誕生したコラボ機内食。メニューも春雨スープに野菜や鶏の具材が入っている、熊本のご当地フード「太平燕(タイビーエン)」がくまモンの付いたリーフレットやパッケージとサーブされます。とてもカラフルで見た目も楽しく、また味もなかなか。



全てご紹介しきれないのが残念なのですが、皆様も海外へ行かれる際は、そのちょっとしたクリエイティビティにも注目してみてください。